

第 4 5 回
神 奈 川 県
美 術 展

T h e 4 5 t h K a n a g a w a A r t E x h i b i t i o n 2 0 0 9

第45回 神奈川県 美術展

The 45th Kanagawa Art Exhibition 2009

1期展 [平面立体] 平成21年9月9日(水)～9月20日(日)

2期展 [工芸・書・写真] 平成21年9月23日(水)～10月4日(日)

会 場 神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展 平成21年10月7日(水)～18日(日)

休館日: 10月13日(火)、10月14日(水)

会 場 厚木市文化会館展示室

主 催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

神奈川県

共 催

(財)厚木市文化振興財団

協 賛

(財)神奈川県美術奨学会／(財)はまぎん産業文化振興財団／

ユニアート／(学)大塚学院／神奈川県文具事務用品団体連合会／

(株)ニコン

後 援

神奈川県市長会／神奈川県町村会／神奈川新聞社／NHK横浜放送局／

テレビ神奈川／FMヨコハマ

ごあいさつ



芸術の秋を迎え、今年も多くの皆様から意欲あふれる作品をご出品いただき、こうして神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一員として大変うれしく思います。

昭和40年の第1回展以来、今年で45回を迎えるこの美術展は、県内最大規模の公募形式の総合美術展です。芸術家を志し日々研鑽を積まれている方はもちろん、神奈川にゆかりのある方ならどなたでも出品できる美術展として、多くの方々に作品発表の機会を提供し、活動の励みにしていただいてまいりました。これまでも、多くの方々が本美術展での入賞を機に活躍の場を広げられてきた歴史を持ち、その水準の高さは、全国に誇ることができるものです。

今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門を合わせて1,711点もの応募作品の中から、厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品が展示されています。ご来場の皆様方には、その芸術性の高さ、着想の豊かさを十分に味わっていただけるものと思います。

人々の文化芸術への関心が高まる中、県では昨年、文化芸術振興の基本理念などを定めた「神奈川県文化芸術振興条例」を制定し、本年3月には「かながわ文化芸術振興計画」を策定いたしました。この計画に基づき、各種の施策を総合的・計画的に推進し、多彩な文化芸術が花開く環境づくりに努めているところです。この美術展の開催を通して、県民の皆様の文化芸術活動がさらに活発になり、個性豊かな地域文化の発展の契機になることを願っております。

結びに、このたびご出品くださいました皆様の創作にかけられる情熱に深く敬意を表しますとともに、本美術展の開催に当たりご尽力いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成21年9月9日

神奈川県知事 松沢 成文

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和 40 年に始めました。県内随一の公募美術展として、広く県民に親しまれ、また新進作家の登竜門として、これまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに、多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

今年の第45回展では、平面立体、工芸、書、写真の全4部門に954人、1,711 点の応募があり、各部門の厳正な審査の結果、380人、431点の作品が選ばれました。今年も、多くの方にご応募いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

この神奈川県の文化、風土は、先人たちの長い創造の時間によってつくりあげられてきました。人が美術作品を創造する時間というのは、人生を作りあげていく大切な時間であると思います。ご応募いただいた全ての皆様の制作にのぞんだ多くの時間、さまざまな想いに敬意を表したいと思います。そして、これからもこの県美術展において、盛んな切磋琢磨、交流が行われ、新たな時代を切り開く美術作品が生まれることを祈念いたします。

なお、この度の展覧会で厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、県美術展の運営に関し専門的な立場からご助言をいただいた県美術展委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

また、特段のご支援を賜りました財団法人神奈川県美術奨学会様、財団法人はまぎん産業文化振興財団様、さらに、各賞を賜りました学校法人大塚学院様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコン様、ユニアート様、そのほか関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成21年9月9日

神奈川県美術展委員会委員長 原 範行

| 1期展
| 平面立体

受賞作品目録

平面立体				
大賞	高橋 善一	横浜市	Hornet II	平面
準大賞	小林耕二郎	横浜市	SEAM-LESS	立体
特選	山脇 勇大	川崎市	Preparation #3	平面
特選	渡辺 幸子	鎌倉市	影 I	平面
県議会議長賞	杉浦 弘昭	横浜市	ホロコースト	平面
県立近代美術館賞	谷川 直子	相模原市	あまやどり	平面
美術奨学会賞	北原 梨絵	逗子市	でんきやさん3	平面
はまぎん財団賞	藤丸 阿弥	相模原市	一黙	立体
ユニアート賞	平野 尚幹	東京都	水面への畏怖	立体

※県議会議長賞は、県議会議長から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。
※県立近代美術館賞は、県立近代美術館による神奈川県美術展に出品された優秀作品の買い上げ賞です。
※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。
※はまぎん財団賞は、(財)はまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。
※ユニアート賞は、ユニアート(株式会社ユニリビング)から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に贈られる賞です。
※市町村名は現住所です。

入選作品目録

平面

椎野 睦美	The laws of nature－Ⅱ
知久 茂雄	緑陰
八木 厚紀	此岸から彼岸へ
村杉 哲子	光の舞－晩春－
神野 隆起	港横浜かもめ舞う
久野 真明	僕はスーパーマンになった。そうさ！それだけ。
石田 直子	土表
花井このみ	踊り場
山本 藍子	ぶう ぶう
吉竹 昌子	花嫁
福谷 優	外を歩けば
石渡 文	Register
岡本ヒロシ	り・め・ん・ばあ! (Ⅱ)
岩崎 淳子	sunao
井澤 泉	うし
嶋原 友香	Tsunagari
赤松 ネロ	水を湛えて
小澤はるみ	Intimacy－4℃
高橋ノブテル	フー・アー・ユー？
小田恵理子	GOKURAKU～生々流転～
安田 文夫	LIVE IN SHONAN
渡辺香代子	Distance －Lovers－Ⅱ
竹谷 一平	命短し
宮内 直子	S－Ⅱ
原 汐莉	ぴんく色のむぎわらさん
柏木 奈穂	roots
黒木南々子	希色の世界
新中 和男	深夜のイスタンブール
関 迪子	「コンポジションⅡ」
田崎 博子	私の愛した二人の女性
村上由紀子	聴く
大塚とみ子	響き
塚越 通生	叢
小花 春夫	凋落
佐藤 英行	白い構図
堀川 祥一	視線
高橋 幸子	ある日Ⅰ
外田 千賀	供花

澤田 サチ	いずり流れいく(Ⅱ)
中山 智介	時の鍵
湯川 列晟	通過と閉塞 A
平松 智子	爽夏(そうか)
田嶋 佳子	つる
川崎 常子	蓮の刻－B
箕輪 美幸	海の響
亀山 治代	映Ⅱ
古市 正彦	空中庭園
新恵美佐子	揺籃
勝山 治実	歩む
西川洋一郎	Two different or similar moons－双月－
横山 瑛子	七竈のように
阿部 道子	坂道
長谷川 大	ひかりをひろう
葉山 幸恵	水の流れる音色
平田 悠介	真夏の神経症
津村 仁美	gardenⅠ(2枚組)
山田 悠	やりとり
山形 晴香	白い庭
小林 文香	こゆるぎ
根本 雅行	plant－Ⅱ
菅野 純代	罪と罰
塚本 綾音	無題
雄鹿 靖二	木々2
安齋 歩見	手をあげて渡る
宮嶋 結香	土層
西野 衛	目が座るための椅子について
和田 彰	患者の花－二曲－双
田澤 優	行方Ⅱ
岩瀬 哲夫	紅いほっぺ
上杉香代子	生きるⅡ
金谷ゆみえ	時の景2
ART DIS FOR	alchemy
高橋 薫	庭
森本 博文	大樹

入選作品目録

立体

藤川真由子	「言葉につくそうとすればそのぶんだけつるもどかしさを感じたことが今までにある？」
中山 晶子	Technoloid (3個組)
福島さやか	赤ずきん
尾利出あゆみ	A story of two mountains II - iztaccihuatl
井上なぎさ	春風
菅原 隆彦	Colony'09-7
林 麻依子	風の色 of 探究
神山 藍輔	DN.15 ～ネコイス～
宮崎 麻奈	還るべき場所 (4個組)
阿片 陽介	陶製オオサンショウウオ
多田 望	まく
神保 寛幸	仁獣幼麒麟
高橋 大樹	素朽
山本 豊彦	作品ZERO

平面立体

今年の応募点数は、昨年と比較すると、平面はほぼ同数、立体は若干の減少が見られたが、全体的には大体同じ規模を保っていた。内容を見ると、神奈川県展は水準が高いとの以前からの評価は総体的に保っていると思われるが、眼を見張るほどの活発さが全体に溢れているとか、きわめて突出した才能が見出されるとかいった、特筆できるような事象は見られない。しかし、審査が進行し最後に受賞作品を選び出していく段階になるとときには、質のいい作品を見ていると言う確かな充実感を感じることができた。

受賞作品について丁寧に見ていくことは叶わないが、一通り述べていくことにする。今年は平面作品が大賞を、立体作品が準大賞を受賞した。大賞の高橋善一《Hornet II》は、キイロスズメ蜂を大きな画面に一匹ずつ克明に描いて群がらせている。中央にひときわ大きい女王蜂がいて巣もあり、周囲に何匹もの蜂がうごめいているのだが、別段スズメ蜂の生態を追った描写ではない。画面の背景は、ハニカム構造のダンボールを下地にして巣の内部が拡大され、ところどころダンボールの表皮を破って穴をあけボンドを詰めて、幼虫が潜んでいる様子を作っている。スズメ蜂は仔細に見るとどれも、姿かたち、肢や羽の位置が精密に表わされながらほとんど同じことに気づかされる。この絵は、蜂の生態に似せながらそれを描かず、巣や巣穴、蜂の大きさなどの実際の比率にも頓着せず、平面状に大きな蜂をはびこらせてそこに眩暈を引き起こすような錯覚の空間を出現させる。それが蜂の密集を描くこの絵の目論みであるだろう。その作用を見るものに訴えかける力は大きい。

準大賞の小林耕二郎《SEAM-LESS》は、高さ70cmほどの黒い円筒を細いナイロンの赤い網でくるんである。重量感のある円筒が、赤い網の柔らかな効果で輪郭を曖昧にし周囲の赤の広がりの中で浮遊する印象を与える。重さの喪失を通して物の在り方を変える。意外の狙いをもったこの作品は、柔軟な軽快さを発散して快い。

特選の山脇勇大《Preparation #3》は、赤い地に黒い点を散らし、点を中心に滲んだような黒い影が画面の外に向かって四方に伸びていく。その影の伸び方と方向からリズム感を伴った運動の感覚が生まれる。そして広がっていく動きのなかに深さをもった空間が発生して、簡潔な抽象が豊かな厚みを湛える。同じく特選の渡辺幸

子《影 I》は、海辺の静かな町を通り過ぎる巨大な飛行機の影を描く。飛行機は形状からすると爆撃機とは見えないが、家並や街路をベン・ニコルソンを思わせる線描で表わした、人影もない町の静かさを覆う灰色の影は不吉な印象さえ与える。巨大な影と静かな町の対照が、この絵の大きく強い骨格を作り出している。

神奈川県立近代美術館賞の谷川直子《あまやどり》は、鳥の脚と人の足を持った二人の生き物がひとつの大きな合羽を頭から被って正体を現わさない。鳥の脚の生き物は青い頭部とオレンジ色の眼を見せて、この世ならぬ空想上の姿をうかがわせる。脚と片方の頭以外ほとんどを隠した姿全体を想像に委ねるこの図像は、大きな合羽が作る全体の形と抑えられた色彩によって不可思議な謎をなし、想像力を働かせる興行きを抱えている。美術奨学会賞の北原梨絵《でんきやさん3》は、紙の箱に入った電球が所狭しと並び店先に堂々と坐る老婦人を表わしている。個性的な筆遣いで細部をすべて丁寧に描きこむ絵作りは、人物も電球一個も絵の上では同じ価値をもって一枚の絵を構成して、そこに出現する現実とは異質の画面の均質性が見るものの眼を引きつける。はまぎん財団賞の藤丸阿弥《一黙》は、薄い層状にした陶土と球状のそれを重ねながら焼いてストゥーバのような形に積み上げている。その塊の形と陶でつくられた質感がおもしろい。県議会議長賞の杉浦弘昭《ホロコースト》は、苦悩する人間の表情を九つ、コマ割りにした画面に対照させる。ほとんどモノクロームで表わされた表情ひとつひとつに、鋭い描写力と的確な省略が見られ、すぐれた技量を感じさせる。ユニアート賞の平野尚幹《水面への畏怖》は、瘦躯を強調された犬の、後ろを振り返る姿態に、動物のためらいが巧みに表わされる。その形態把握には、確かな観察眼と腕前が示されている。

受賞作はそれぞれに個性的な性格をうかがわせて、審査の過程で審査員の関心に強く訴えてきた。もちろんその他にも興味を引く作品はすいぶんあったが、すべてに言葉を費やすこともできない。ただ、受賞作に関してもつねに票が割れ審査員の見方も多様であったし、審査も最終段階になると、作品それぞれが高い質を見せて、審査員が変われば受賞作も変わるほど差は小さいものだといい添えておきたい。

(山梨俊夫)



大賞 Hornet II：高橋 善一

ダンボール、樹脂、アクリル 180×180cm

〔略歴〕

1960 横浜市に生まれる

1982 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業

〔受賞歴〕

2009 神奈川県美術家協会展(県展) 神奈川新聞社賞



(部分拡大)



準大賞 SEAM-LESS : 小林 耕二郎

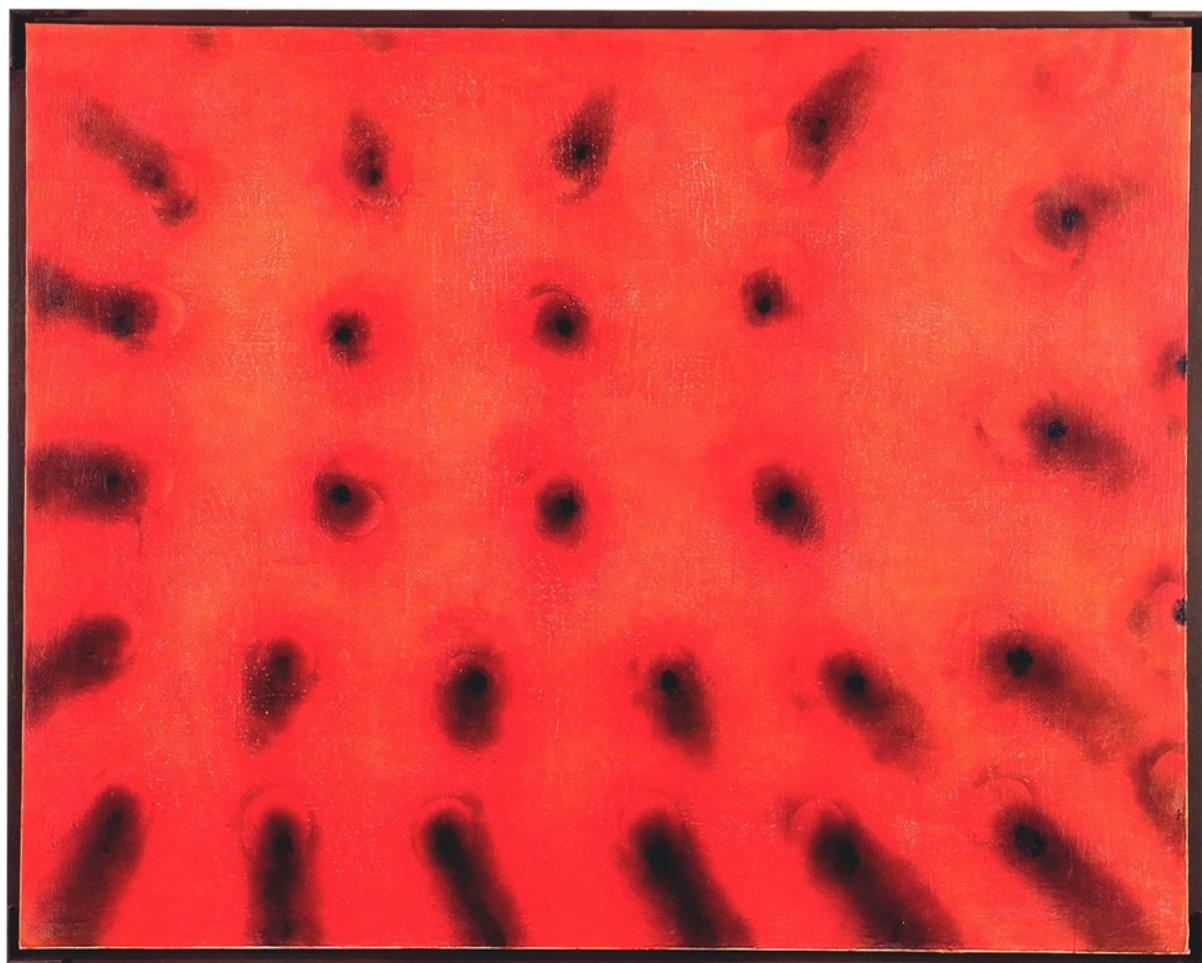
木、OILBAR、網 120×120×73cm 320kg

〔略歴〕

- 1975 滋賀県信楽町生まれ
- 2001 金沢美術工芸大学美術学部彫刻学科卒業
- 2003 多摩美術大学大学院美術研究科修了

〔展覧会歴〕

- 2006 個展〔ex well〕スペース・ワンサード
ART PROGRAM OME 2006〔一次世代の作家たちの変革―〕青梅市
- 2007 多摩美術大学彫刻学科助手副手展 多摩美術大学内ギャラリー
個展〔one | the others〕スペース・ワンサード
ART PROGRAM OME 2007〔一総天然色の無意識―〕青梅市
- 2008 〔open studio〕大正坂スタジオ
Art-Link 上野 - 谷中〔ギャラリー小品展〕ギャラリー kingyo
ART PROGRAM OME 2008〔空気遠近法 ―U39〕旧青梅市農林高校講堂



特選 Preparation #3 : 山脇 勇大

キャンバス、油彩、水性アルキド樹脂絵具 182×227cm



特選 影 I：渡辺 幸子

キャンバス、油彩 227×182cm



県議会議長賞 ホロコースト：杉浦 弘昭

キャンバス、ダンボール、セメント 163×140cm



県立近代美術館賞 あまやどり：谷川 直子

シルクスクリーン 113×154cm



美術奨学会賞 でんきやさん 3：北原 梨絵

キャンバス、油彩 182×227.5cm



はまぎん財団賞

一黙：藤丸 阿弥

陶 90×80×140cm 240kg



ユニアート賞

水面への畏怖：平野 尚幹

鉄 90×120×90cm 60kg

| 2期展

| 工芸・書・写真

受賞作品目録

工芸

大賞	丸山 愛	伊勢原市	striplay	染色
準大賞	市岡 真治	小田原市	南方色の翼状庭	金工
特選	小森谷 薫	相模原市	ゆらぎ	陶
特選	井上菜恵子	藤沢市	Mt.Ararat -残された時間-	金工
美術奨学会賞	小泉 昌浩	秦野市	クリスタルガラスによる清と輝の コンポジション	ガラス
美術奨学会賞	浅倉 貴子	大井町	遥かなる旋律(4個組)	陶
大塚テキスタイルデザイン 専門学校賞	大久保静香	横浜市	夜の静寂	染織

書

大賞	松永 光鳳	茅ヶ崎市	三十六歌仙
準大賞	二瓶 香苑	横浜市	高郵
特選	國峯 正美	横浜市	深沈和平
特選	新 景園	横浜市	林鴻詩
美術奨学会賞	井上 春苑	横浜市	常建詩
神奈川県文具事務用品 団体連合会賞	神山 紅雲	横浜市	王漁洋詩「三峡橋」

写真

大賞	米山 悦朗	鎌倉市	記憶・パキスタン大地震(3枚組)
準大賞	鈴木 達朗	東京都	waiting
特選	蒲 康夫	横浜市	光輝(3枚組)
特選	吉原 靖男	横浜市	“よそ見しないで…”
特選	竹田 宏司	平塚市	涼陰
美術奨学会賞	堀坂 和夫	横浜市	競り合い(3枚組)
美術奨学会賞	鈴木 良	鎌倉市	キャラバン・サライのファミリー(3枚組)
ニコン賞	西沢一比古	横浜市	孤高の松

※美術奨学会賞は、(財)神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀な作家に給付される奨学金です。

※大塚テキスタイルデザイン専門学校賞は、(学)大塚学院から工芸部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※神奈川県文具事務用品団体連合会賞は、神奈川県文具事務用品団体連合会から書部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※ニコン賞は、(株)ニコンから写真部門の優秀な作家に贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

入選作品目録

工芸

田中 秀男	黒の魅惑(宙へ)
糸井惣四郎	瑠璃釉宇宙人
今林三恵子	つるみ翼橋
海上 文夫	大甕
山口あさこ	織の着物「サフラン」
西前 力	備前水指
望月すみ子	鎌倉彫 額(ボビー)
大西 清治	備前緋襷四方花入
松本 英一	どんぐり
西田 和恵	バーコードのコンポジション
fu*ka	ARTERY－動脈－(6個組)
川泉 孝一	黒天目釉白彩大鉢
徳永 史	花器 もつれる雲(2個組)
務川 洋子	彩文炆器「瞑想と回帰」(2個組)
鳥海 正次	信楽大壺
神宮宇 光	少年
小森谷 薫	ココロノカビ
松永ちひろ	NOBIRU
西山美恵子	晩秋の日暮れ
東海林伸和	焼メめ角型花器
小山タキ子	屏風
穴戸美智子	かぜ
平野 実	峭立
岩澤 栄一	深山の息吹
藤原 佳奈	きずなの森から
熊岡 祥雄	オープンマインド(3段組)
上野 智恵	シダモンカキ
中村 麻紀	Palace
三島 一能	my favorite
山本貴美子	ほおづえをつく少女
梅田 千晶	結文様漆革器
高橋 英昭	大地 ー母なるー
坪井 紀都	君八何ヲ想ウ
鈴木しづこ	樹の光
浅井 祥子	遠い街の記憶
藤森 京子	刻(とき)
大原 乾資	藍の板締染麻布
高津潤一郎	亜鉛結晶釉平鉢

青木 藻美	お七 炎上
生頼美砂恵	戯れて…(3個組)
大塚 国男	コロニー、生ものたちのすみか
廣瀬 陽	「春の鳥」「冬の鳥」(2点組)
渡部 裕子	宙吹グラール鉢「彩花」
水橋さおり	海＊華
岡田 光子	時を重ねてⅡ(2個組)
広木真知子	BIG WAVEⅡ
池田 節子	「悦」
深野 怜	葡萄連携文皿
山内 茂夫	蒼陽
大村 俊二	「陽」
本田 和子	潜む
門田 眞幸	若竹色花器
近藤 純子	向かう
岡崎まりこ	CROW
木村 隆男	備前緋襷花入
猪本 洵子	備前大皿
土屋 祐康	泥彩象嵌丸文花器
渡辺 稔浩	風 ^{かぜ} の棲 ^{すみか} 処
りなした陽子	シミュラークル,2
佐藤ちさと	mo・no・ka・ge－hedge－(3個組)
古川 元吾	線文炆器
古川真紀子	嬉し鉢
野村 裕之	鉄赤釉 花生け
佐藤 一彦	夢色羊
曾根原 緑	緋タピストリー'09
山本 裕子	流 ^{るりゅう} 流
鶴岡 弘	渚のはな(2個組)
植草 稔	煌く宙へ
黒瀬 和美	波のかたち(海想う)
福田 典子	HANA.
狩野サキエ	ゆく秋
三浦 静香	circle
近藤 圭	刷毛目組鉢(5枚組)
藤村 公子	イスタンブールの夢
藤崎佐保里	時の記憶
小山 純子	陽光

佐藤雅一郎	対州硯若田硯「雅静」
松岡 英恵	白マット掛け流し大鉢
島本 登俊	もら しずく 宙の雫
砂田 紘子	クリネオ

書

水川 芳竹	胸懷
松野 翠鳳	白楽天詩
斉藤 朱鳳	李商隠詩
栈敷 東煌	我が心
岩下 菁燎	白楽天詩
富岡 真華	單者易折衆則難摧
宮田 静鏡	一條攝政集
茅野 秀苑	からもゝの花
石川 豊江	李商隠詩
八木 利夫	来鵬詩
伊東 光石	白居易詩七言律詩
小野 蕙厚	白百合の…
掛足 好恵	山中答俗人
宮川 昌翠	琴清堂詩
深川 春汀	伝小野道風筆 小島切臨書
中澤 春雪	吉野山 峰の桜や咲きめらむ ふもとの里に匂ふ春風 他2首
松山 一桑	静
増田 珠香	攬
山田 栄恵	夏と秋と行きかふ空の…他2首
松浦 房吉	篆刻
坂西 恵風	恵風三顆
中出 ゆり	物外游
北澤 延彦	華月一窓
伊藤 幸代	翰墨游戲
善入 正英	因勢利導
黒木 喬	峰巒起伏
奥野 知行	百舟百千舟
大野 博	安在静中
森崎 愛芳	梁紹輝詩
小磯 栄芳	陳獻章詩
林 鶴芳	杜甫詩
高島 芳雲	王英詩
重田 鶴耀	劉滄詩
島村 秀芳	杜甫詩
杉村 荘雲	杜甫詩
棚田 翔雲	葉顥詩
渡部 祥優	陶安詩
黒岩 照芳	郭鈺詩

喜多	光蓮	万葉のうた
勝呂	清香	舟行逢雪圃出山
二瓶	祥舟	平壩城南村
上村	泊舟	「月夜過元弘山房」實鄰詩「江樓望月」 2首
柿沼	柏苑	学圃贈鄧生
橋本	紫柳	舟中立秋
奈良	静桜	秋意
小倉	清舟	書 夏夜對月
鶴岡	慎舟	雁門述懷
中村	黄汀	東皋
向後	瑛舟	高淳、渡高淳湖
中山	壽香	雨後登彭澤北山仏閣、起最早
中村	清園	紅葉(抄)
早野	芳蘭	岳陽樓重宴別王八員外貶長沙
村杉佐和子		秋
吉田	青粹	新古今和歌集より
田辺	芳雪	山家集より
四季	茜歩	萬歲
池上	恵峰	村雨の
浅間	静江	短歌二首
鈴木	良子	ほととぎす
明石	清子	花・月
木下	清華	夏の夜も
相沢	不逸	澤如時雨(篆刻)
田名部泉聲		ほととぎす
加藤	香峰	振芳(篆刻)
山本	清子	家路へといざなう
石井	久美	アドバンテージ
堤	智子	暁の抱擁
中山	政子	彩りの景
松田	紀子	日守菜穂子の詩 白いぬくもり
小林	千幸	火の粉と読経
平出	節子	見付拓の詩 朝餉
小笠原優子		かぜのみち
塚田	柊花	赤羽根裕の文
馬場	虹苑	短歌(石川啄木)
柴本	華雪	武西良和の詩 詩人
福本	泰子	城井雨咲の詩 紫陽花

上野	春海	灯(平子真理の詩)
青野	直子	珠洲の海
鈴木	玉恵	敦煌伝説より
保科	千絵	ポールヴェルレーヌの詩
土屋	景暉	李東陽詩
安地	翠石	宗泐詩
猪俣貴美枝		王漁洋詩
根岸多江子		劉嗣綰詩
片岡	稻麴	江南旅情
浅見	玲湖	奉和聖製送尚書燕国公説赴朔方軍
中村	蒼碩	錢塘西湖
牛山	香流	東湖舟夜
三國	盈花	揚春師詩
西澤	蒼海	高棟詩「九月八日郭南山亭宴集分得下字」
添田	紫苑	五言古詩
武田	瞳処	沈愚詩
槇	緋呂	夜投西寺
成田	紫鸞	夢
村上	湖翠	美濃の山
武	啓茜	さくら花
佐々木永隆		野火
小笹	総翠	寓天界寺
渋谷	荘江	焦溪雨渡
鈴木	天鳴	獨座
鈴木	静耕	張氏溪亭雜興
木下	滔泉	彭澤
池田	莊春	送許竹隱之紹興
岩崎	勝濤	梅花驛
小山	莊雪	泛楊城湖
野頭	莊雲	杜甫詩 登岳陽樓
米澤	千松	桜花
飯田	容風	蝸の声
小嶋	直子	沙羅の木の花
阿部	馨月	命
下門	芳子	藤と月
松本	亘正	劉 文房詩
高橋	麦宇	張羽詩(明)「取勝亭感旧」
横山	弘子	伝 西行筆 中務集(臨)

河又世津子	あさみどり
玉井真知子	百人一首抄
春木 環	詩経より 深則厲、淺則揭
吉永 静江	石為身
猪野 公一	自家寶蔵
安部 大巖	自然法爾
中田 一華	夜宿無錫
塚田 濤石	題玄武禪師屋壁 杜甫詩
楠井 杏花	思歸簡嚴八
田草川雅子	天の香具山
四壁 九一	古硯銘之一節 筆之寿…
秋山 克彦	獲我心

写真

原田 健兒	スーパークリムゾン(2枚組)
奥田 恭子	子供絵画展
坂井 猛	脱皮
堀口 潤一	里山の人
畑 誠一	花火の宴
澤地 弘	宇宙人？
栗栖佐保子	わらべうた
杉本 鉄雄	第3惑星紳士録(国立科学博物館)(3枚組)
仲俣 勝子	子供達(セネガル)
小林 渡	急げ急げ(3枚組)
砂金 賢司	朽ちたものの威厳
鈴木 明久	夢心地
松本 陽子	ひと仕事終えて
新井 証	優しい手
野沢 敏晃	ばらばら
佐藤 哲也	街Ⅱ
中野りりあ	大砲のあった島(3枚組)
佐藤 幸雄	思い出の桜
木所 栄一	群像(3枚組)
三崎 陽久	芽ぶきの舞台
佐藤 健司	花模様(3枚組)
日下 正武	小さな仲間達の食事 (オオヒラタシテムシ)(ネコハエトリ)(アゲハ)(3枚組)
久保 良一	猛火炎上
土谷 尚雄	モルゲンロート
竹渕 和子	Dream(しゃぼん玉)(3枚組)
藤木 武	ジャンプ
津田 祥夫	もう、ちょっと！
大西 紘昭	虚構
鈴木 末雄	飛翔
中山洋之助	季節(2枚組)
佐藤 芳春	牛と暮らす街(3枚組)
有馬 良江	ハイ・ポーズ
荒島 謙一	願い叶って(3枚組)
大濱 秀太	コントラバス奏者の叔父宅にて(3枚組)
伊藤 敏児	ホットタウン(3枚組)
羽鳥 博隆	風に揺られて
若杉 義男	晩秋(3枚組)
宮坂 猛	地歌舞伎(3枚組)

網島 基之	Blue Impulse(3枚組)
金親 敏雄	とき ^{とき} きおく ^{きおく} の記憶(3枚組)
小林 審一	我が町・ふりむけば(3枚組)
上原 勝夫	枯葉のロンド
氏家 充	アプローチ
神野 愛子	祭り(2)
黒柳陽二郎	Passing me by#2
安部きよ子	たまゆら ^{たまゆら} 玉響(3枚組)
岩崎 泰治	私は私、花は花
岩崎佐代子	どうしたの？
鬼塚 紀子	2008年夏
加藤 武	霧宿る
漆原 利大	裏側
加山 邦輔	暮す(3枚組)
笹尾 敏子	早朝の港(3枚組)
神蔵 和明	舞踊訓練
大出 光信	戦痕 お父さん、安らかに眠りください(3枚組)
南雲トヨ子	フィナーレ
田中 夏	幻影

工芸

工芸部門はここ数年応募点数も減少気味で県下最大の公募展としては、淋しい限りである。今回は170名が出品し、192点の応募点数であった。昨年より出品者は15名減り、点数では23点の減少であった。

全体の出品内容では、現代アートに近い作品もあれば伝統的技術を重視した作品もあり工芸の裾野の広さを感じる。特に若い人達の活躍に目を見張るものがある。

今回の審査はディスカッション方式を重視し上位入賞を決めた。

大賞は丸山愛の「striplay」に決まった。横幅約4mの大作で、上段がストライプのイメージで下段がストライプをモチーフとした服の柄である。ストライプという単純な中に、作者は興味を示しストライプを織や素材の特性によって表現した。一見単純な仕組みであるが、ストライプをテーマとしてここ迄表現した作品は稀である。これから作者がどのような作品を展開していくか期待したい。準大賞は市岡真治の「南方色の翼状庭」である。金属の真鍮を削り、自分の中に記憶するものと呼び起こす内面的なイメージをとらえたものである。フォルムは植物を連想させ、とにかく金属の場合は表現が固くなりがちであるが、光沢面とマット面との調和を考えながらまとめた作品である。

特選2点のうち、小森谷薫の「ゆらぎ」は人生の色々な過程の中で、内面的なものを掘り下げて考えついたのがこのフォルムで、焼き上げた後、発泡のようなも

のは、叩いて掘り出し、その上に釉薬をかけてある。普通陶器の場合は、轆轤や手捻りが多いが、そのような技法にとらわれずに、若いエネルギーが湧き出ている。もう一つの特選、井上菜恵子「Mt. Ararat - 残された時間 -」は金属の中の鍛金の仕事で、一枚の金属を叩いて形態を作り、その上加飾として金属板を動物の形に切り抜き、貼ったものである。作者としては動物のイメージを本体の山に見立てた中で、時間の経過を考え、それを作品にしたものである。残念なのは動物の数が多く、動物の形にも一工夫欲しいところである。

美術奨学会賞では浅倉貴子の「遥かなる旋律」は自分の思っている土のざっくり感を内面的に掘り下げて表現している。一つ一つのフォルムは見方によって色々なものを連想する、壺のような形と貝殻のようなものとの関連性がもう少し表現できればと思う。

美術奨学会賞のもう一点、小泉昌浩の「クリスタルガラスによる清と輝のコンポジション」はガラスの屈折を考えてのフォルムである。磨きの技術は素晴らしく、その磨きの特性を活かして、ガラス全体のフォルムをもう一工夫欲しいところである。

大塚テキスタイルデザイン専門学校賞の大久保静香の「夜の静寂」は着物作品として横縞と藍色の織りのバランスも良く、ぬいとり紋織のパターンも効果的である。賞の中で新しい試みと伝統的技術の伝承がかみ合った作品群とが今回の特徴であった。

(赤堀郁彦)

書

ほぼ前年と同じ出品数で237点、結果的に今年もその約半数となる132点が入選となった。行草による多字数の漢字書、ならびに近代詩文書の作品が主流を占める一方で、漢字の大字ないしは一字書および仮名作品が極端に少ない傾向は、歴史と実績ある神奈川県のパブリック展という性格から鑑みて、むしろ今後は大いに改善されるべきだろう。出品作品全体を概観してまず感じたことは、作品の完成度ないし錬成度という観点から問えば、各作品間に随分と格差があるなあというのが正直な感想であった。一般に公募展の場合、限られた規定内での制作ゆえに個性を競わせることは難しい。とする見解を前提においたとしても、技法面からいえば、題材に見合った筆の適正を判別することにはじまり、墨の状態や発色の調整、作家の好ましいと考える表現に向けて相応しい用紙を検討することや、紙面構成の独自性を吟味するあたりまでは、出来る限り作家各々が錬成過程の中で徹底してほしいと思った。作品化には、個々に創意がなければならぬと考えるが、各々が手本としたものの風容を背負ったままに「完成」としている作品が多かった点は残念である。そうした中で今回の受賞作品は、いずれも作品の完成度や創意の点で十分に評価できるものであったことは明記しておきたい。

大賞の松永光鳳「三十六歌仙」は、市松に配した金地系の料紙に、三十六首の秀歌を、香紙切風の書に倣って意欲的に取り組んだ作品だった。線條の安定感と送

筆の伸びやかさ、筆致の変化において高く評価された。ただし故殿村藍田先生の作風を強く意識している点では、今後さらに独自の創意を深めてほしい。準大賞の二瓶香苑「高郵」は、行草を交える明清風形式に宋代風の結体ほかを加味して交え、強弱自然な展開を四行にまとめた。後半、やや精度を求めて単調となった傾向が窺えた点、次の課題であろうか。同じく行をたてた多字数の漢字作品では、清廉な構成の中に安定した筆致筆法を備えた二点、新景園「林鴻詩」（特選）と神山紅雲「三峽橋」（神奈川県文具事務用品連合会賞）が選出された。篆刻の國峯正美「深沈和平」（特選）は、この分野の出品作品の中では群を抜き、最も完成度の高いものであった。だからこそ、釈および落款の書も作品の一部として、より高いレベルでの揮毫力をつけていただければ今後に望みたい。井上春苑「常建詩」（美術奨学会賞）は直線の厳しい表情を篆書の字形に付与したが、一字ごとに発する気宇がやや小さく感じられた。形式にとらわれず、大らかな表情での書作も期待したい。

出品点数の減少は恒例化しつつあるようだが、無理に出品数を上げようとするれば、同時に出品作品のレベル低下もまた免れ得ないであろう。そうした意味でも、今回の出品作品において、少なからず錬成度の希薄さを感じてしまう傾向は、大きな改善が必要な点であり、来年度以降への重要課題となろう。

（笠嶋忠幸）

写真

審査の冒頭で、ざっと並べられた応募作品をひとあたりチェックし、まず「う〜ん」と頭をひねってみるのが審査する人間の倣い性ですが、今回は例年と違って「？」を頭にのせた審査員の数が多いように感じました。「全体に淡泊でおとなしい」とか「ハツとする作品がない」とか「色調も含め、暗い雰囲気の商品が多い」などの声がいつもより多めに耳に入ってきます。低迷する時代のせい？ というのは考え過ぎかもしれませんが、昨年に続く応募数の漸減という事実もあり、確かに当初は、そんな感じに見えたかも知れません。また昨年もこの講評で「普通の人間の暮らしと姿が見えてこない」と重要な指摘があったように、日常的な人間の記録がやはり目に入ってきません。スナップ・フォートの少ないことも関係あるようです。一般市民の権利意識の高まりとともに、スナップ・フォートというジャンルはハードルの高いジャンルになってしまいましたが、やはりもう少しチャレンジしたいなあというのが正直な感想です。

さて、上記のような第一印象から審査員たちの目がより厳しく、緻密になったせいという訳でもないでしょうが、結果的に入賞した作品は地に足の着いた、オーソドックスな力を持ったものが多かったようです。奇をてらった目くらまし作品や、変化球でかわそうとする作品は上位に入る余地はありませんでした。

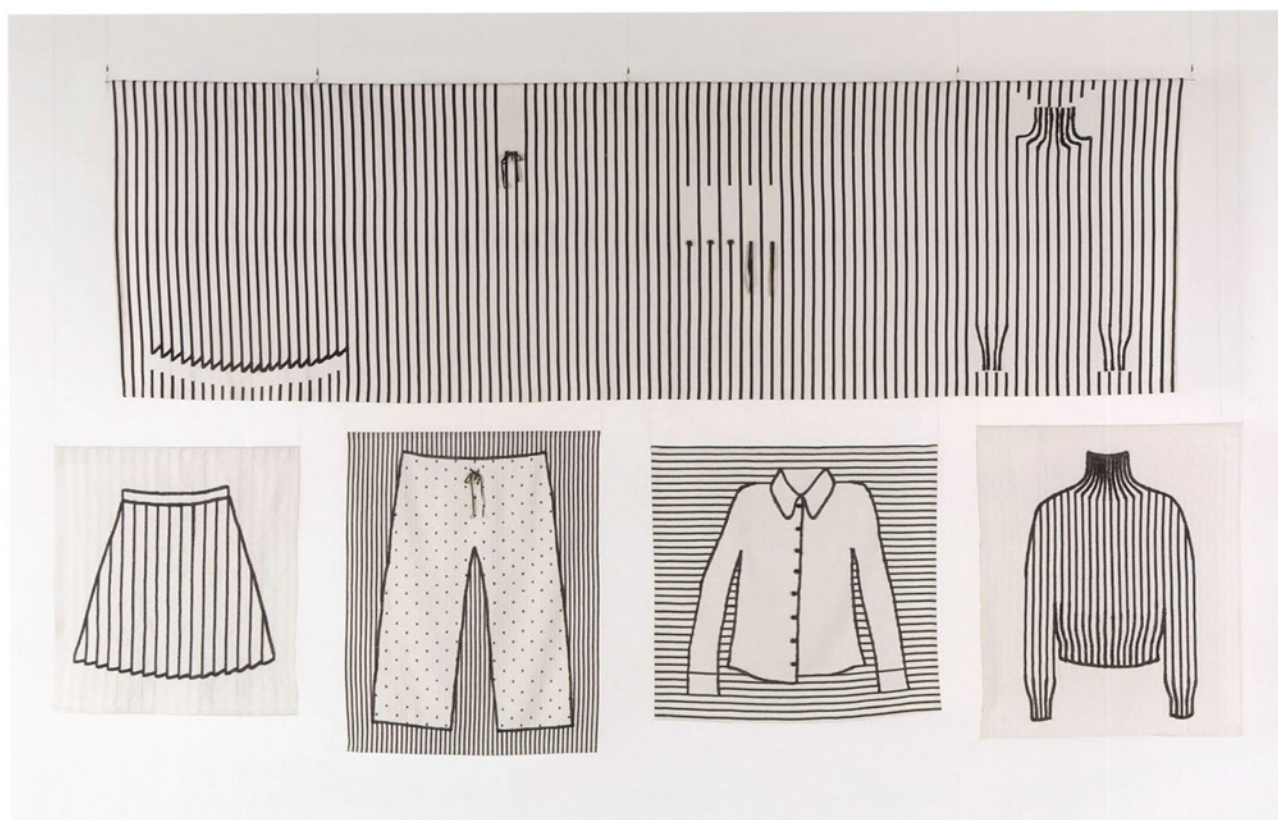
大賞の米山悦朗「記憶・パキスタン大地震」は組み写真のお手本のような作品です。クローズアップ、ミ

ドル、ロングと距離の異なるイメージを、過不足なく定着させています。感情を抑えた静かな視線が、この現実の悲惨さをしっかりと伝えてきます。準大賞、鈴木達朗「waiting」は、あたかも「これこそ写真だ」という作者のメッセージが聞こえてきそうな、一瞬の光をとらえた美しい一点。

特選以下の作品についてもひとこと記しておきます。特選「涼陰」はエアポケットのような時間を切り取った不思議な作品。同「光輝」は光と影を過剰なまでに追求し、アートの臭みからギリギリ抜け出した作品、同「"よそ見しないで..."」は演出写真的ではありますが、今回の応募作品の中では唯一、無条件に明るく楽しい作品。美術奨学会賞「キャラバン・サライのファミリー」は被写体がごく自然に撮影者に対しているのが好ましく思えます。同「競り合い」は粘り強く、躍動的な瞬間をとらえたスポーツショット。ニコ賞「孤高の松」、あたかも大正ロマン、あるいは“芸術写真”をほうふつさせる名ショット。

最後にちょっと気になった点の一つ。相変わらず、デジタルプリントの仕上がりが向上していないことです。プリンターをはじめとするハード的な環境も充実し、プリント知識も増しているはずなのに、セルフプリント草創期のようなクオリティのものも散見されました。これは意外でした。応募者ばかりでなく、個人的にも課題として心に留めておきたいと思いました。

(前田利昭)



大賞 striplay : 丸山 愛

染色、羊毛 200×380cm 3kg

〔略歴〕

1985 埼玉県生まれ

2009 多摩美術大学 美術学部 生産デザイン学科テキスタイル専攻卒業

〔展覧会歴〕

2008 「バナナでつくろう地球の布」展 (OZONE)

〔受賞歴〕

2008 JFW ジャパンクリエイション 2008 テキスタイルコンテスト入選

ジャパンテキスタイルコンテスト 2008 シーズ賞



準大賞 南方色の翼状庭：市岡 真治

金工（真鍮） 75×68×55cm 15kg

〔略歴〕

1976 広島県生まれ

2002 多摩美術大学 大学院美術研究科 デザイン専攻 クラフトデザイン終了

〔出品歴〕

2003 神奈川県美術展

くらしの工芸展

2005 神奈川県美術展

2008 高岡クラフト展

〔個展〕

2007 ギャラリー・ブス



特選 ゆらぎ：小森谷 薫

陶 40×50×40cm 10kg



特選

Mt. Ararat -残された時間-

井上 菜恵子

金工 24×24×55cm 5kg



美術奨学会賞 クリスタルガラスによる清と輝のコンポジション：小泉 昌浩
ガラス（光学ガラス） 16×76×33cm 33kg



美術奨学会賞 遥かなる旋律(4個組)：浅倉 貴子
陶（大） 30×30×52cm 8kg （小）28×20×28cm 3kg



大塚テキスタイルデザイン専門学校賞 夜の静寂^{しじま}：大久保 静香
染織、絹（ぬいとり紋織・平織）、絹



(部分拡大)

大賞

三十六歌仙：松永 光鳳

182×61cm

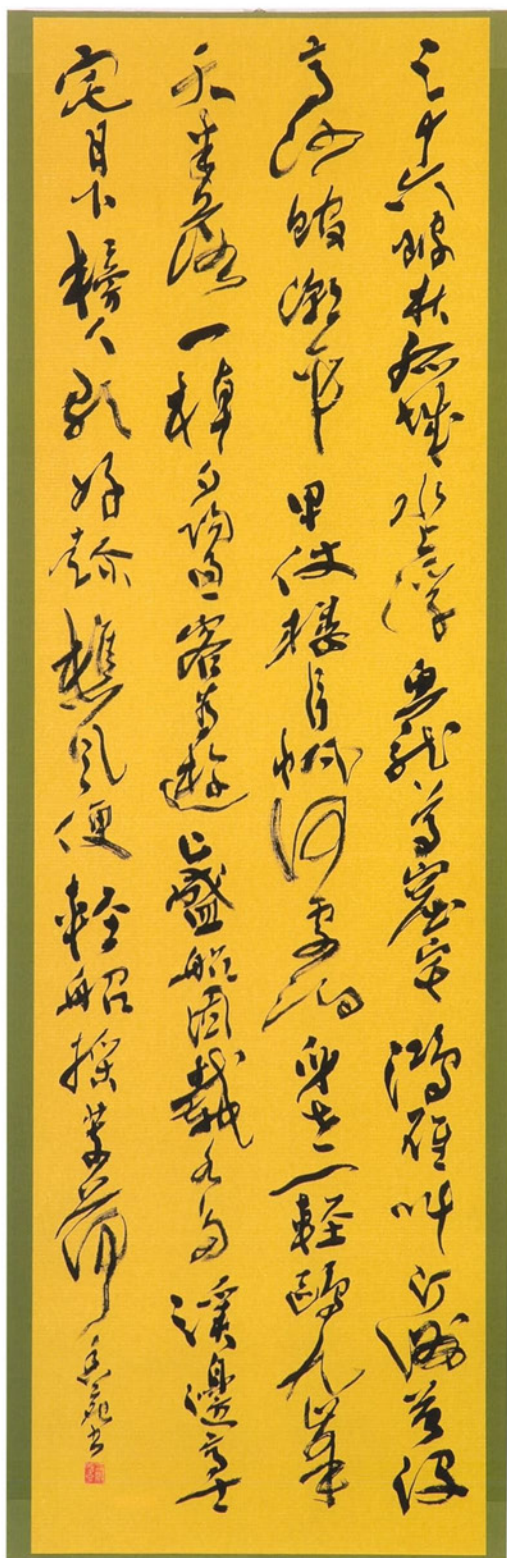
〔略歴〕

1952 茅ヶ崎市生まれ

産経国際書会 審査会員
21世紀国際書会 審査会員
神奈川県民書連 審査会員
茅ヶ崎市書道協会 会長
凌雲社 常任理事
中山鶴雲、宮本竹逯に師事

〔受賞歴〕

21世紀国際書展	グランプリ大賞
凌雲書展	大賞・会長賞
日展	入選
神奈川県美術展	入選9回
個展	15回 ほか



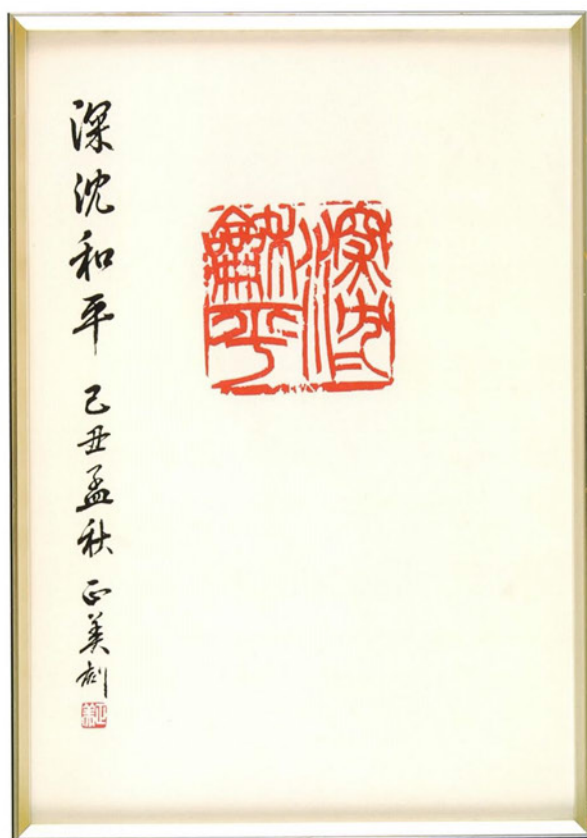
準大賞 高郵：二瓶 香苑

182×61cm

[略歴]

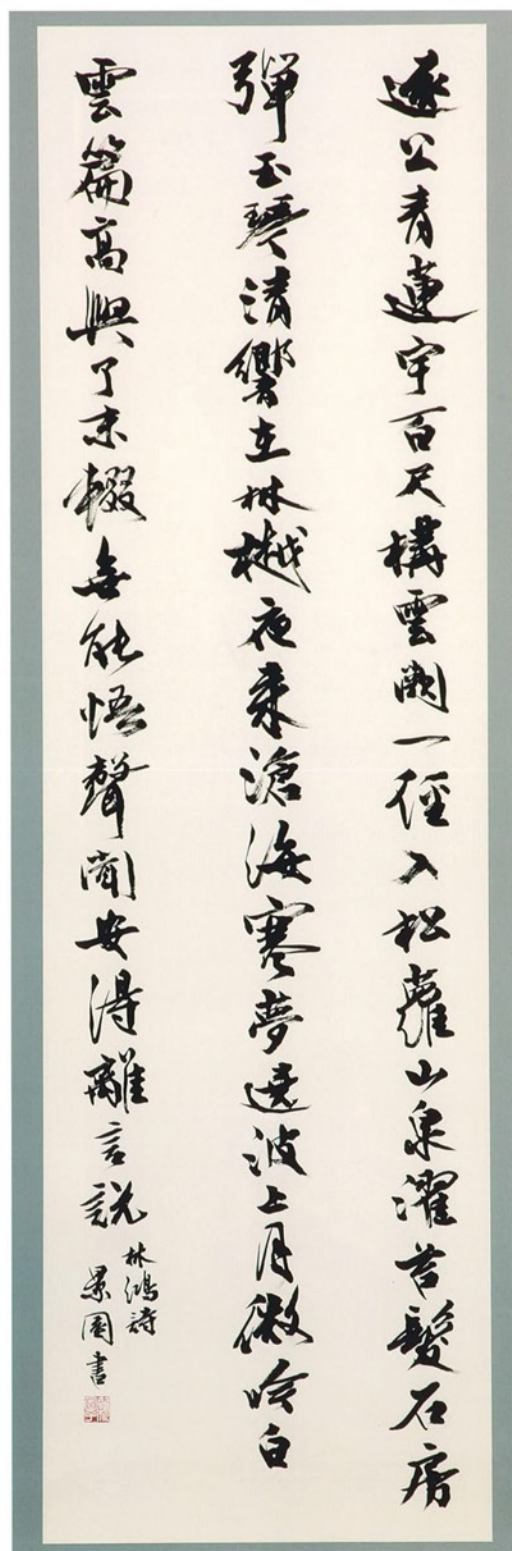
1934 東京都生まれ

毎日書道会 会員
国際書画連盟 副理事長
芳林書道院 監事
水川舟芳に師事



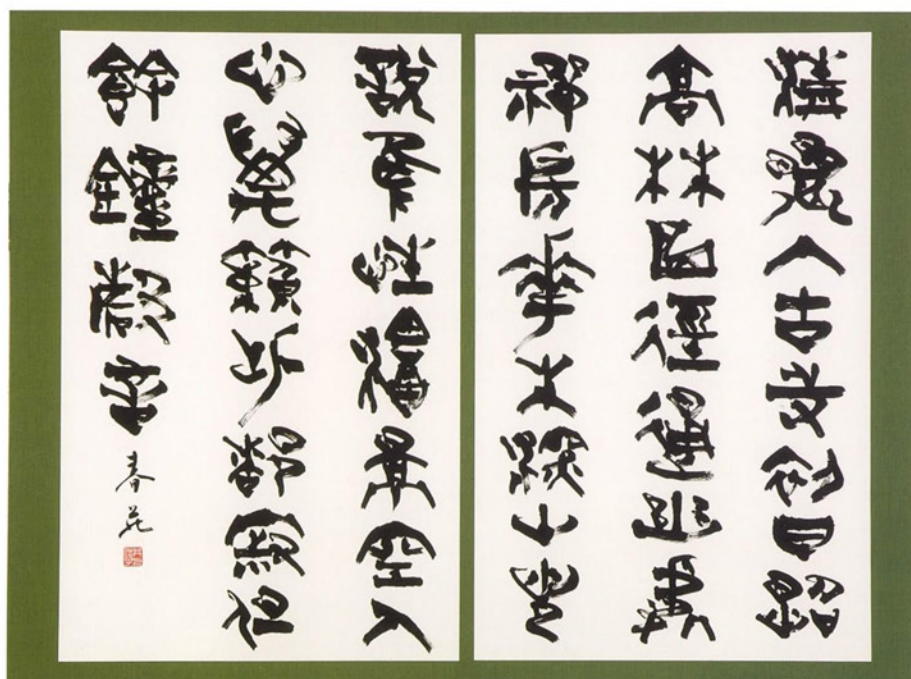
特選 深沈和平：國峯 正美

39×30cm



特選 林鴻詩：新 景園

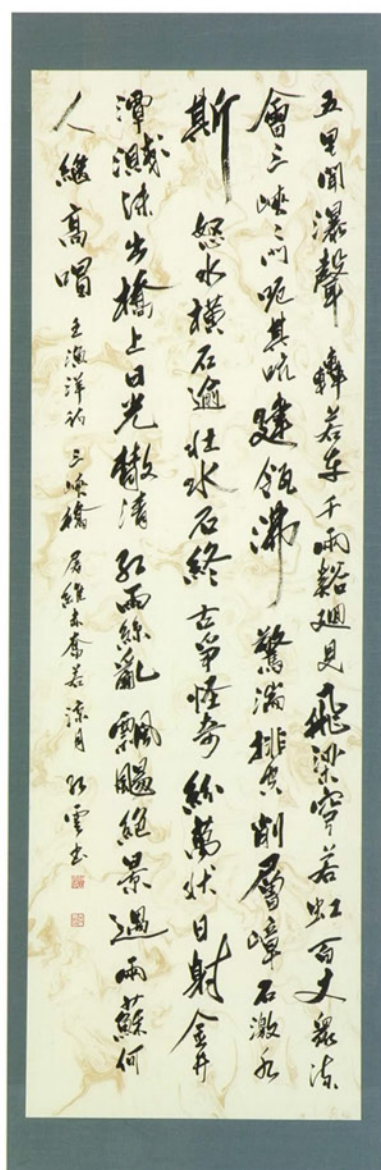
182×61cm



美術奨学会賞

常建詩：井上 春苑

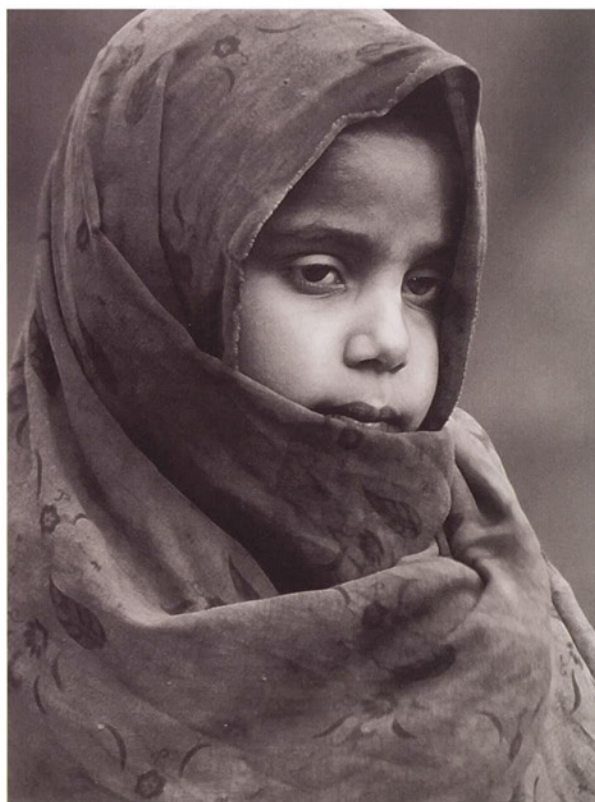
91×120cm



神奈川県文具事務用品団体連合会賞

王漁洋詩「三峽橋」：神山 紅雲

182×61cm



大賞 記憶・パキスタン大地震(3枚組)：米山 悦朗

〔略歴〕

1935 兵庫県生まれ
1958 横浜国立大学工学部 卒業
1998 総合商社を退職後、写真活動を本格化
現在に至る

日本写真作家協会 日本写真協会所属

〔入賞歴〕

2005 日本写真協会公募展 外務大臣賞
JPA 展 特別賞
2008 神奈川県美術展 特選

〔個展〕

2007 「アッサラーム アレイクム」 ニコンサロン bis21 (新宿)
2009 「伊奈谷に生る」 シリウス新宿





準大賞 waiting : 鈴木 達朗

[略歴]

1965 東京都生まれ

2008 写真撮影を始める

[受賞歴]

2009 第34回「視点」入選



特選 光輝(3枚組)：蒲 康夫



特選
“よそ見しないで…”
吉原 靖男



特選 涼陰：竹田 宏司



美術奨学会賞 競り合い(3枚組)：堀坂 和夫





美術奨学会賞

キャラバン・サライのファミリー(3枚組)：鈴木 良



ニコン賞 孤高の松：西沢 一比古

出品点数一覧表

	平面	立体	1期展計	工芸	書	写真	2期展計	合計
人数	243人 (80)	52人 (17)	295人 (97)	170人 (86)	237人 (132)	252人 (65)	659人 (283)	954人 (380)
点数	355点 (80)	57点 (17)	412点 (97)	192点 (87)	237点 (132)	870点 (115)	1,299点 (334)	1,711点 (431)

※（ ）内は入選者数と入選点数

大賞受賞者

第1回	昭和40年度	大森 連夫『九十九里』日本画	第16回	55年度	和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真
第2回	41年度	廣瀬 義男『作品群』洋画	第17回	56年度	坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸
第3回	41年度	垣内 治雄『坐る』彫刻	第18回	57年度	小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真
第4回	43年度	川村 直子『69-A・69-B』洋画	第19回	58年度	井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹蠶松影』書
第5回	44年度	山井イク夫『Laby70-1・2』立体造形	第20回	59年度	東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸
第6回	45年度	伊藤 彬『天涯巡礼』日本画 大久保利図『Straw』工芸 西川 万象『盧子諒詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真	第21回	60年度	鶴見 厚子『夢の質感』洋画 石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第7回	46年度	中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵩寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・ザンダー（フェリス女学院）』写真	第22回	61年度	会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻 浜本 舛舟『良寛詩』書
第8回	47年度	佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第23回	62年度	高橋 洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形 森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第9回	48年度	河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第24回	63年度	三枝 孝司『複製された場所』版画 菅間ゆみい『夢印象』工芸
第10回	49年度	大山 鎮『語り』日本画	第25回	平成元年度	セツ・スズキ『アンタニハワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第11回	50年度	鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第26回	2年度	山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遥かなる亜熱帯』工芸
第12回	51年度	泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第27回	3年度	荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第13回	52年度	井上 麦『黒の女-77』彫刻			
第14回	53年度	坂田 一之『MIRROR』立体造形			
第15回	54年度	前本 利彦『暗い部屋(断)』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書			

第28回	4年度	たべけんぞう『MAGNETIC FIELD92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書	第38回	14年度	高梨 裕理『水面』平面立体 三輪 博子『河』工芸 栃木 郁子『田中冬二の詩』書 嶺岸 良太『far away—いつか置いてきたもの—朝—朝—』写真
第29回	5年度	王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸	第39回	15年度	井上 達也『植勢図』平面立体 小田中 藍『「おやすみ」とは言っても・・・』工芸 幡野 恵子『論語』書 金親 敏雄『都市幻影』写真
第30回	6年度	辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書	第40回	16年度	坂本 友里『ゆめのかず』平面立体 大槻 洋介『孔』工芸 古屋恵美子『田部井花子の歌』書 内藤 秀和『沈黙の機関(第五福竜丸エンジン)』写真
第31回	7年度	R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂釜』工芸	第41回	17年度	三原奈津子『IN MY CLOSET <melting times>』平面立体 尼子 裕美『EXODUS』工芸 中村 暁雲『毛序詩』書 古郡 和敏『原宿寸描(2枚組)』写真
第32回	8年度	結城 勉『個々の領域—群像制』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民(ネパール)』写真	第42回	18年度	田中 幹『COCOON』平面立体 岡本 明子『COBALT BLUE』工芸 宮脇小夜子『秋登宣城謝眺北樓』書 商 家訓『路傍の華(3枚組)』写真
第33回	9年度	剣持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真	第43回	19年度	小笠原 森『untitled』平面立体 吉田 晴弥『源の始まり』工芸 矢島 虹周『小倉山』書 市川 雅章『夢売り場』写真
第34回	10年度	笹井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真	第44回	20年度	大石 麻央『アダムとイヴ もしくは自分の愛し方』平面立体 吉井こころ『月海—つきうみ—』工芸 茂住 菁邨『称薦』書 中山洋之助『将棋三昧(3枚組)』写真
第35回	11年度	川田 祐子『BIO-PANORAMA』平面立体 斉藤 龍也『白化粧象嵌花器』工芸 稲葉 竹苑『観雨』書 林 京子『午後の街』写真	第45回	21年度	高橋 善一『Homet II』平面立体 丸山 愛『striplay』工芸 松永 光鳳『三十六歌仙』書 米山 悦朗『記憶・バキスタン大地震(3枚組)』写真
第36回	12年度	川城 夏未『BALANCE 2000 No.1』平面立体 『BALANCE 2000 No.2』 深瀬知嘉子『陰翳』工芸 松原 隆『白の風景』書 吉田 陽子『最後の楽園(ガラバゴス)』写真			
第37回	13年度	小林 秀幹『静かな流れの中で』平面立体 羽鳥 恵子『彩泥象嵌鉢』工芸 和田 清泉『花にのる』書 福田 幸子『女瞳私1.2.3.(NUDE)』写真			

第45回神奈川県美術展 関係者名簿

(平成21年9月9日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 原 範行
副委員長 福江 裕幸

委員

平面立体

大矢十四彦 林 敬二 辰野登恵子 嶋 剛
原田 光 山梨 俊夫

工芸

今井 陽子 佐野登志子

書

川口 流坡 船本 芳雲

写真

山田 信次 和田 久士

審査員

平面立体

大森 博之 大矢十四彦 猿渡紀代子 嶋 剛
多和 圭三 中上 清 山梨 俊夫

工芸

赤堀 郁彦 今井 陽子 小林 貢 齋藤 敏寿
佐野登志子 須藤 玲子 橋本 真之

書

石川 芳雲 石原 太流 尾崎 静鳳 笠嶋 忠幸
川村 玄舟 中西 雅舟 船本 芳雲

写真

江成 常夫 岡井 耀毅 熊切 圭介 前田 利昭
村岡 秀男 山田 信次 和田 久士

プロのために、
プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図デザイン用品コーナー

■伊勢佐木町本店(4F)…………… TEL.(045)261-1231

■厚木店(4F)…………… TEL.(046)223-4111

■藤沢店(フジサワ名店ビル4F)…………… TEL.(0466)26-1411

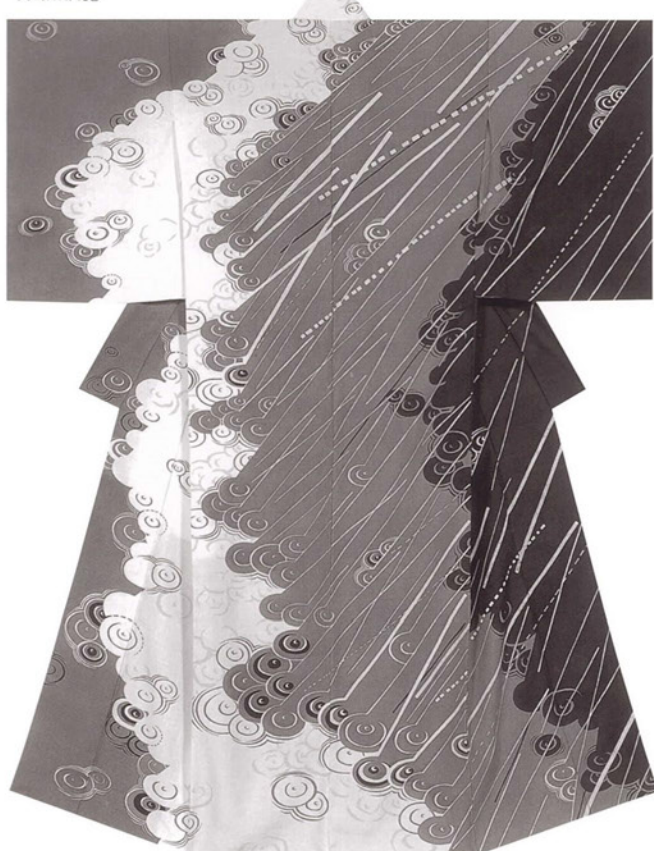
※藤沢店は書道用品のみ取り扱っております。

布の未来を創る

大屋由美子

第19回シルク博物館全国染色作品展 入選

「日照雨」



望月美里

ジャパンクリエイション2007 入選



資料・願書無料送呈

学校(授業)見学 平日随時実施

学校説明会等
6～3月 各月1回実施

◎入学願書受付

推薦入学 10月1日～1月29日

一般入学 11月2日～3月31日

◆学科構成◆

デザイン総合科

●テキスタイルデザインコース (昼2年)

●工芸染織コース (昼2年)

友禅染色専攻

伝統織物専攻

●デジタルデザインコース (昼2年)

テキスタイルデザイン科 (夜2年)



大塚テキスタイルデザイン専門学校

(姉妹校) 大塚末子きもの学院 大塚情報処理専門学校

〒160-8560 東京都新宿区須賀町10番地 ☎03(3357)3671 FAX03(3226)9745

URL: <http://www.otsukagakuin.ac.jp> E-mail: info@otsukagakuin.ac.jp

ケータイでも資料・願書請求、学校説明会等申込可。 <http://www.otsukagakuin.ac.jp/k>



美しい感動、
伝えます。

高精細印刷 HBP-700

✿ 文化堂印刷株式会社

ISO14001 認証取得 プライバシーマーク使用認定

〒250-0001 神奈川県小田原市寿町1-10-20

本社・工場 0465-34-9206

東京事業部 03-3567-1116

<http://www.bunkado.jp>

The 45th Kanagawa Art Exhibition 2009

第45回神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール 事業課内

〒231-0023 横浜市中区山下町 3-1

TEL. 045-662-5901 (代)

写真撮影：文化堂印刷株式会社

印刷：文化堂印刷株式会社

発行：2009年9月9日

HBP₇₀₀

この作品集は、最高級の美術印刷技術HBP-700を使用しています。
HBPは、High Brightness and Pure Colorsの略で、通常印刷の175線に対し、
画素情報量で16倍の700線のきめ細かさを持つ印刷技術です。



第45回神奈川県美術展で
使用する電力のうち
2000kwhを風力発電に
よる自然エネルギーで
まかっています。

神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
神奈川県